

鎌倉・九条の会 ニュース

第1号 2008年6月4日発行

鎌倉・九条の会

TEL:0467-24-6596

FAX:0467-60-5410

0467-24-6577

Email:iza@kamakura9-jo.jp

HP:http://www.kamakura9-jo.jp



楽しく にぎやかに 9条ピースウォーク

五月四日から六日まで、幕張メッセで9条世界会議が初めて開かれました。それに先立ち、七十日間に及ぶ広島から東京までのピースウォークがあり、広島から通して歩いていらした二十名ほどの方を含め、鎌倉では三百人近くの人が参加しました。

鎌倉九条の会としてではなく、個人として多くの鎌倉九条の会の方が熱心に準備をしてきました。ここに報告したいと思います。

二月二四日、広島を発った9条ピースウォークの一行は、二ヶ月後の四月二五日鎌倉に入り、私達は竜口寺で藤沢からバトンを受け継ぎ、十二所のイエズス会黙想の家まで歩きました。戦争のない平和な世界を願って、その思いを多くの市民に伝えようと歩きました。雨の日も風の日も歩き通した人達の思いを込めた9条ピースウォークの旗を持って先頭を歩くという思いもかけぬ役を受け、何とも言えない緊張と恥ずかしさが入り混じった気持ちで歩きました。それぞれカラフルな旗を持つたり、マントをまよったり、

太鼓を叩きながら歩く人あり、ギターを弾きながら歌い歩く人あり、様々なスタイルで静かに歩きました。途中背高女も加わりにぎやかに歩きました。

竜口寺を発ってから小動に出て、134号線を江ノ電に沿って



稲村までの途中から加わる人もあり、隊列は徐々に延びて、八幡宮のパレードの頃には予想をはるかに越えた人々で熱気に包まれました。七里ガ浜では若いサーファーがチラシを柔らかいままなごさして受け取ってくれましたし、観光バスの車中などから、小・中学生の「がんばって」などの声援を受けたり、手を振ってくれたり

しました。遠足に来ていた中学生も一緒に歩いてくれました。このピースウォークへの温かい反応を感じ、それがまた私たちに力を与えてくれるようでもありました。

恩寵教会での昼食の時、ギターを持った若者と話す機会を得たのですが、その人は青森の六ヶ所村の人で、ピースウォークの機会があると参加しているとの事でしたが、広島からのピースウォークに青森の人が参加していることに驚きました。東京や仙台、アメリカ・マレーシアなどからも参加している人もいました。九条を守る草の根の運動が広く横のつながりをつくり広まってきているという実感ももちました。雪ノ下カトリック教会の集会ではイラク戦争に参加したアメリカの兵士の話や、教会の牧師さんと仏教の僧侶が並んで平和への思いを語り聞きあう場面もあり、九条を守り実現しようとする運動が、世界の人々と手を結び、思想・信条のちがいを越えた結びつきを持ってきている事を実感できました。

その日は夕方、十二所のイエズス会黙想の家まで歩き、翌日そこから逗子駅まで歩きましたが、ト

ランペットの演奏とともに鎌倉からの行進を迎えてくれました。ピースウォークの旗を逗子・葉山に引継ぎ、出発を見送りました。遠ざかる逗子・葉山の人たちを見送りながら、私は本当にこのピースウォークに参加できてよかったと思います。今、日本や世界の奥深い所で流れている平和への熱い思い、そしてその広がり、わずか二日間のウォークでしたが、体で感じる事ができたように思います。(角田正夫)

最高の屋食!

ピースウォーク昼食会場は佐助の日本キリスト教団鎌倉恩寵教会の礼拝堂をお借りしました。当初食事は20〜30人分という話でしたが、日が近づくにつれ40〜50人分、70〜80人分と増えてゆきました。デモや集会だとちよつと足がふみだせないけどお料理ならという方、当日仕事でパレードに参加できないけど料理なら朝出がけに届けられるという方など計20人が腕をふるいました。お赤飯、庭の竹の子も入った野菜の煮物、肉団子、鮭のマリネ、春野菜のマリネ、サンドイッチ、日蓮上人の故事にちなんだぼたもちなど……

そして当日、途中どうも1000人をこえその情報が。あわてて食糧買い足しに。いよいよ到着という時、外に出迎えにゆきました。市役所のトンネルをぬけ、坂をのぼってくる隊列。新緑の山に青い旗がはえ、その美しさに、しばし感動に皆、息をのみました。

結局120人で会場はギユウギユウ。お料理に加え、市内名店から届いたドイツ菓子、材料調達でご協力いただいた紀ノ国屋インターナショナルの果物も並びました。大人数でお腹もすいていなのに、皆さんとても礼儀正しく、混乱もなく、綺麗にお料理が片づきました。

翌朝、鎌倉出発の時間いた「この2ヶ月で一番おいしかった。京都よりよかった。」の声で、一同疲れがぶつとびました。

(井上ユリ)

パレードと集い

4月25日、「9条」を日本で守るだけでなく世界の国々にも届けたいとの想いで繋がった人びとの輪は300名を超え、鎌倉駅西口広場を埋め尽くしていました。ジンベ太鼓のリズムに乗ってほぼ定刻に出発したピースパレードは9条旗にリードされ、ピカソの250羽の白い鳩が参加

者の手で青空に向かって振られた横須賀線沿いの道は、踏み切りで隊列を数回にわたって分断されるというハンデイはあっても、準備会の意図どおり、鎌倉駅プラットフォームで電車を待つ大勢の観光客に9条パレードをアピールするのに絶好のルートでした。

2の鳥居前で先導車と合流した鎌倉メインストリートの若宮大路パレードは、混雑する人や車の流れをしばしば妨害することにはなりましたが、子ども連れの若い母親、「戦争はもう二度といやだ」という年配者、外国からの参加者など異なる背景のさまざまの人たちがそれぞれの思いを胸にひとつの目的のために鎌倉に集っていることが人びとの共感を得たのかもしれない。パンフレットを受け取り、手を振って応えてくれた人びとの好意的反応が印象に残っています。

ピースウォークは雪ノ下カトリック教会前の集いでフィナーレを迎えました。「9条ピースウォーク」代表日蓮宗の加藤上人の挨拶に続いて語られた、米国から参加のイラク帰還兵アッシュユさんのことば、「戦争には勝者も敗者もない。 Cheney 副大統領が

最高経営責任者だった軍事企業のようなところが利益を得るのみ」「誤爆で死亡したイラクの女の子に届けられた補償金は羊一頭の半分でしかなかった」を大國のリーダーたちはどう受け止めるのでしょうか。ボストンからのヒップホップミュージシャンによるパフォーマンス、彼らと日本人参加者によるコラボレーションに次いで、地元の鎌倉からは、エッセイストの甘粕さんが平和都市宣言を行なっている市の現状について語られました。



集会は場所を提供して下さった雪ノ下カトリック教会の田代司祭からの参加者への「祝福」のことばで締めくくられました。今回のイベントこそ、国籍、言語、宗教、文化等の違いを超えて創り出された多文化共生の真の実践であったと思います。

関わられた全ての方々の叡智と活力が今後の9条活動に繋がって行くと思っています。

(石原 秀子)

『武力によらず平和をつくる』この憲法九条の考え方を、いま、世界で生かしたい。

戦争のない世界のために。

一人ひとりが、平和に生きられる未来のために。

9条世界会議に出席して

全体会(4日)

こんなすばらしいよびかけで世界各国の人が集まってくる9条世界会議に参加出来ました。幕張メッセの大きな会場は人・人・人であふれていました。開場前から、くねくねの長い列でした。

【第1部】

世界の希望としての9条

基調講演は二人でした。北アイ
ルランドのマイレッド・コリガ

ン・マグワイアさんは一人ひとりが平和を作る人になる。不正義は憎悪と恐怖を生む。赦しこそが平和のカギ。友情と和解をはぐくむ努力、人と人の間で、町と町の間で、国と国の間で対話を進めてきた。問題解決のためには人々の長い決意が必要と語りました。アメリカのコラ・ワイズさんは1999年に「ハーグ平和アピール国際市民会議」を呼びかけ成功させたパワフルなエネルギーがまっすぐたわわってくる語り口で、みんながもう一つずつ活動をとよびかけました。

海外ゲストトークでは GIPPAC (11人) 国際民主法律協会(15カ国40数名)の代表の話の次、9条ピースウォークの人たちが到着し、あいさつがあり、その後日本から池田香代子さん、土屋公献さんのトークがありました。

一部のしめくりは池辺晋一郎さんの指揮で各国の言葉で歌われた合唱「ねがい」と市民と弁護士400名のベートーベン第九の歌声でした。一部のトークの中で受けた感銘が、静かにからだのすみずみ迄ゆったりと流れていくそんな感じがしました。

【第2部】

戦争のない世界を創る

ガーナのボンバンデさん、アメリカのベアテさん、韓国の李さん、コスタリカのカルロスさんのトークの間をぬって、ピースボート・ダンス・プロジェクト、アイヌ・レブルズ、普天間かおりさんの踊りあり音楽あり、なんと豊かな時を12000人をこえる人たちが共有しあっていることだらう。

最後にトーク・セッション「イラク・アメリカ・日本」ではアメリカ元陸軍大佐アン・ライトさん、イラク支援ボランティア高遠さん、イラク人道支援ワーカーカーシムさん、イラク帰還兵エイダンさん、作家雨宮さんの5人が堤さんの司会のもとでくりひろげられました。九条のすばらしさと共に日本の軍事費第3位、イラク派兵等九条に反することがおこっている現実をしっかりとみつめ、だからこそ九条の心をひろげていく大切さをかみしめました。亀淵さんのすばらしい歌声をききながら会場をあとにしました。

鎌倉九条の会

9月のつどい

予定

生き残った特攻隊員松浦喜一さん
(85歳)が語る

「憲法第9条は戦争犠牲者たちの 魂の叫びが結集したもの」

1945年6月19日、沖縄海上の米艦隊に対する最後の特攻作戦に参加、突然の天候悪化で引き返し生き残った松浦さんは、戦争の死者たちの声を背に護憲を説きつづけています。麻布の老舗菓子店を閉じて執筆と静養に専念する松浦さんから話を聞く貴重な機会です。

なお当日、S・オカザキの記録映画「ヒロシマ・ナガサキ」の原案となったパーソナルフィルム(DVD版)を上映する予定です。(つどいの詳細は追ってお知らせします。)

分科会 (5日)

昨日のことを考えると、はやめに行かないと会場に入れないと思いはやくでかけました。「アジアのなかの日本」に出たかったです。沢山の人が並んでいましたが入れ座れました。

憲法9条と日米安保条約が「共存」する現状をアジアの視点から検証し、過去の戦争への反省から生まれた憲法の平和主義を未来へ向けてアジア・太平洋地域全体の平和に活かすためには何をしなくてはならないのかということについて、コーディネーター2人、パネリスト5人*で真剣に話

し合われました。* (韓国・ドイツ・中国・台湾・アメリカ・フィリピン・日本、7カ国の人たち) おわるとすぐ「憲法九条と地球市民」の分科会。入口ぎゅうぎゅうの所、入りこみたつたまま参加しました。次の分科会さがして歩きました。次が、どこもいっばいで、つかれてきて、ライブハウスにいきたつたまま音楽を聴きました。今日はさすがつかれました。若い人たちがいっばい、いろいろな係りの仕事をしていました。参加者も若いカッパルが沢山いて、鎌倉九条の会もこうならいいなと思いつながりました。(浦野昭子)

予 定

6/9(月) 9の日行動 15:00 小町通入り口

6/19(木) スタッフ会 18:30

6/24(火) こまつ座第85回公演
「父と暮らせば」

①14:00 ②19:00

鎌倉芸術館・小ホール

問い合わせ:生活者大学校鎌倉分校

TEL0467-24-6596

7/14(月) 映画 「日本の青空」
鎌倉生学習センター・ホール

① 10:00 ②13:00 ③15:30 ④18:30

主催:鎌倉で「日本の青空」を観る会

3月27日鎌倉での相談会に「9条ピースウォーク」の実行委員会共同代表、神父様、横須賀、藤沢、茅ヶ崎から、また4月5日実行委員会には横須賀、逗子から、そして10日・16日の実行委員会に多くの鎌倉市民がご参集くださり、1ヶ月足らずの準備で瞬く間に市民に広がり、当日の成功となりました。

更に、地域のエネルギーと獨創性を最大限発揮できるよう奉仕的にお世話くださった9条ピースウォーク実行委員会のみなさま、ピースウォーカーのみなさま、はがきやチラシの発送元の方々、近隣地域での援助などの奉仕的で真摯なお気持ちと行動力が、いつの間にか市民に伝わり、支え合いが始まったのです。その心と、情熱と、行動力、勇気を頂いてさまざまの方が個人参加で「私にできることをさせて」と、いたるところで動いてくださいました。

恩寵教会、カトリック雪ノ下教会、十二所黙想の家、そして食材などを提供くださった方々、みなさまに深くお礼を申し上げます。市民は一人一役、実に短時間につながり、広がり、行動しました。腰越の方々が高口寺に集まり接

待されたり、茅ヶ崎・藤沢・大和などのみなさまのご参加、ウォーク企画一切、鎌倉チラシ作成と印刷・配布、三警察署への届出、先導車からの呼びかけ文書き、アナウンサー、20人もの専門家のみなさまのお料理、食器持ち寄りや後片付け、ご挨拶、パレードの企画、出し物一切、持ち物一切200人分、機械係、諸方面へのご挨拶、カメラ担当、保険担当、会計:あげればきりが無いほどの担当を、市民の皆さんがやりこなし、当日250人以上のご参加を実現し、多額の浄財をいただきました。

9条を輝かすことへのこれからの動きに、鎌倉市民は、今回関係されたみなさまから多くの宝物を頂き、感謝あるのみです。一人ひとりが立ち上がり、大きなうねりになるための得がたい一ヶ月の体験に心からお礼申し上げます。(郡司春乃)

今まで鎌倉九条の会は、講演会などが終わると、ニュースや冊子で報告をしてまいりましたが、このたび報告だけでなく、予定や感想なども含めてトータルなニュースをつくることに致しました。皆様からのご意見・ご感想をお寄せください。(JT)